

平成27年度議会懇談会 議会からの報告

■ 「地方創生」について

地方創生は、昨今の「人口減少」や超高齢化の波の課題の下で、政府レベルでは、地方創生関連法が策定され、これを受けて、与謝野町でも「創生本部」が設置され、12月に地域創生総合戦略を策定することになっています。

与謝野町では、平成19年に、「水・緑・空 笑顔 かがやく ふれあいのまち」というスローガンの「総合計画」が策定されています。この総合計画に沿った形で、総合戦略が作られます。

今日までに、8回の有識者会議が開催され、関係者らとのワークショップも開かれてきました。

この審議を経て、9月に人口ビジョンと、総合戦略である「与謝野町ひと・しごと・まち創生総合戦略」提言書が住民視点でまとめられ、議会に提出されました。

この提言は、「未来への約束」と題して、サブタイトルで、～京都与謝野のひとづくり、しごとづくり、まちづくり～としており、「京都与謝野人口ビジョン（中間案）」も示されています。

とりまとめられた提言の柱は、4つであります。

第1の柱は、「織りなす人をつくる」と題するものになっており、～与謝野を愛し、多様性を認め合い、新しいモノやコトを創出する人材育成～と、しています。

第2の柱が、「創造的にものをつくる、しごとをつくる」と題して、～与謝野町ブランド戦略～と、しています。

第3の柱は、「まちへの人の流れをつくる」と題して、～与謝野版IU(いじゅう)戦略～と、しています。

第4の柱が、「広域連携により、持続可能なまちをつくる」と題して、～丹後は、ひとつ～と、しています。

今後、この提言を受け、町の総合戦略が策定され、12月議会で審議されることになっています。

■ ゴミ処理の広域化事業と、ゴミの有料化について

1市2町のゴミ処理の広域化事業については、宮津市波路の広域ごみ処理施設の期限が来たことに伴い、石川と須津の境の山手を、予定地と定めて、建設計画が進められています。

この施設は、可燃物の処理施設と、資源ごみの分別処理、そしてリサイクル施設などで、構成されており、平成30年に稼働が予定されています。現時点の建設予算は、約97億円となっています。

また、ゴミの有料化については、9月から、住民環境課が、ゴミの減量化とゴミの有料化

についての説明会を町内の各区で、開いてきました。有料化の対象は、可燃ごみと不燃ごみの袋に限定され、平成28年度をゴミの減量化の促進期間として位置付けて、その減量の進み具合を見た上で、有料化するのか、しないのかを、町は判断をしたいとしています。有料化する場合は、平成29年度以降としています。

■ 保育所や幼稚園に通う子ども達の「認定子ども園」について

この問題は、国が、「認定こども園」構想を打ち出したこともあり、与謝野町では、岩滝地域には保育所と幼稚園があり、幼稚園の施設が耐震の整備が出来ていないことから、出来るだけ早く、「認定こども園」として整備することとしており、昨年も議会懇談会で取り上げてきました。

町の方針としては、町内の8つの保育園と2つの幼稚園を再編し、旧町ごとに1つずつの「認定こども園」を新築する計画です。建設予定は、財源の関係もあり、合併特例債の活用可能期間内の平成28年度～32年度を目途としています。

今後の予定は、まずは、岩滝保育所と岩滝幼稚園を再編し、「認定こども園」として、平成28年度中に岩滝幼稚園敷地内に新築する。このため、平成28年度の早期に岩滝幼稚園を取り壊すため、幼稚園児の保育先を岩滝保育所とすることとしています。

さらに、平成28年4月から岩滝保育所施設を使用して、幼保連携型の「認定こども園」をスタートさせる予定で、平成29年4月からは、新園舎に移転する方針です。

なお、「認定こども園」については、名称がまだ決まっておりません。

また、旧加悦地域、旧野田川地域についての具体的な施設計画は、現時点では未定です。

■ 加悦中学校の改築工事の状況について

加悦中学校改築工事状況は、今年8月末に新体育館が完成しました。

9月上旬から、既存体育館と、校舎棟一部の解体工事を行ない、12月中旬から、新校舎の地盤改良杭(くい)と、基礎工事を行ないます。

来年の平成28年は、4月上旬から、校舎の本体工事にかかり、10月下旬に新校舎が完成予定で、11月に新校舎へ引越し、12月上旬から、既存校舎の解体と、整地工事を行ないます。

平成29年2月末に、全ての工事が完了する予定です。